

倭の七王の比定

住谷善愼

第1部：大王の比定；『宋書』対「紀」

1. 『宋書』原文と倭の五王の対中国外交表

年次	王名	王朝	内容	冊号
①四二三年	讃	東晋	遣使・受册	
②四二五年	讃	宋	遣使・受册	
③四三〇年	讃	宋	遣使・受册	
④四三八年	珍	宋	遣使・受册	
⑤四四三年	済	宋	遣使・受册	
⑥四四三年	済	宋	遣使・受册	
⑦四四三年	済	宋	遣使・受册	
⑧四六〇年	興	宋	遣使・受册	
⑨四六七年	興	宋	遣使・受册	
⑩四七七年	武	宋	遣使・受册	
⑪四七九年	武	宋	遣使・受册	
⑫五〇二年	武	宋	遣使・受册	

第1表 倭の五王の対中国外交表（括弧内は推定）

「宋書」倭国伝
倭國在高麗東南大海中世修貢職高祖永初二年詔曰倭國萬里修貢遠誠宜甄可賜除授太祖元嘉二年遣使貢獻司馬曹達奉表獻方物讀兄弟珍立遣使貢獻自稱使持節都督倭百濟新羅任那秦韓百濟六國諸軍事安東大將軍倭國王表求除正詔除安東將軍倭國王珍又求除王倭國等十三人平西征虜將軍輔國將軍號詔立詔二十年倭國王濟遣使奉獻倭以為安東將軍倭國王二十八年加使持節都督倭新羅任那加羅秦韓百濟六國諸軍事安東將軍如故并除所上二十二人軍都濟死世子興遣使貢獻世祖大明六年詔曰倭王世子興奕世載忠作藩外海莫化室壇恭修貢職新羅邊業宜授爵號可安東將軍倭國王興兄弟

倭王自稱使持節都督倭百濟新羅任那加羅秦韓百濟七國諸軍事安東大將軍倭國王順帝昇明二年遣使上表曰封國偏遠作藩于外自昔祖禰躬擐甲冑跋涉山川不遑寧輿東征毛人五十五國西服衆夷六十六國渡平海北九十五國王道融秦麻士連營葉朝宗不冠于歲臣雖下愚奉先緒願率所統歸崇天極道遠百濟裝治船舫而白驪無道圖欲見吞掠抄邊謀戔劉不已每致稽滯以失良風雖曰進路或通或不臣亡考濟貢定離離塞天路控弦百萬義聲震激方欲大舉率衆父兄使垂成之功不獲一筭居在諒闇不動甲是以偃息未捷至今欲練甲治兵申父兄之志義士虎賁文武效功白刃交前亦所不顧若以帝德覆載推此疆敵克靖方難舞言前功竊自假開府義同三司其餘咸假授以勸忠節詔除武使持節都督倭新羅任那加羅秦韓百濟六國諸軍事安東大將軍倭王

・石原道博編訳 2005『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』 中国正史日本伝(1) 岩波文庫

・第1表 倭の五王の対中国外交表（括弧内は推定）『古代を考える日本と朝鮮』武田幸男編、吉川弘文館、2005年、p. 87

2. 比定の基本コンセプト

素朴な疑問

本当に倭の五王でいいのだろうか？

⇒ 五王でいい。とすれば、アレコレぶれて 仕舞が付かない。

基本コンセプト

文献の世界で見るとどうなる？
一方、考古の世界から見るとどうなる？

⇒ 平たく言えば、左手に文献(ソフ、言葉)、右手に考古(ハード、実体)である。



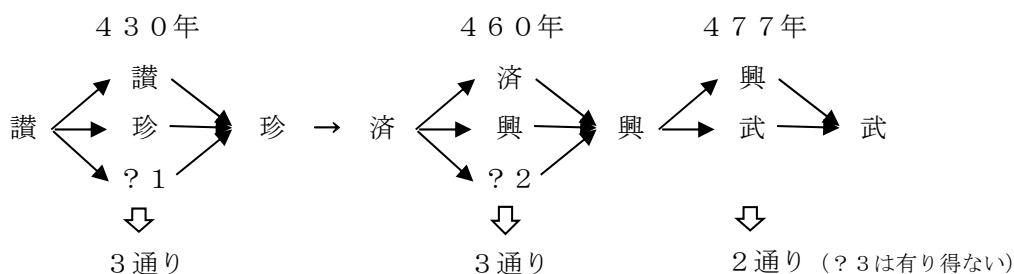
『宋書』倭国伝には 讃・珍・済・興・武 なるほど、確かに五王ではある。

しかし、皇帝本紀には次の3事跡が記されている。

430年倭国王、 460年倭国、 477年倭国

3. 考えられる倭王は誰か？

とすれば、倭国王、倭国、倭国とする大王は、具体的に誰の可能性があるだろうか？



結果、考えられる可能性は全部で $3 \times 3 \times 2 = 18$ 通りの組合せとなる

泣いても笑ってもこの18通り。そして正解はただ1つ。

表1 18通りの組合せ

年次	413	430			460		477	478	大王 教數
	讚		珍	濟		興		武	
①	讚	讚	珍	濟	濟	興	興	武	5
②	讚	讚	珍	濟	濟	興	武	武	5
③	讚	讚	珍	濟	？ 2	興	興	武	6
④	讚	讚	珍	濟	？ 2	興	武	武	6
⑤	讚	讚	珍	濟	興	興	興	武	5
⑥	讚	讚	珍	濟	興	興	武	武	5
⑦	讚	？ 1	珍	濟	濟	興	興	武	6
⑧	讚	？ 1	珍	濟	濟	興	武	武	6
⑨	讚	？ 1	珍	濟	？ 2	興	興	武	7
⑩	讚	？ 1	珍	濟	？ 2	興	武	武	7
⑪	讚	？ 1	珍	濟	興	興	興	武	6
⑫	讚	？ 1	珍	濟	興	興	武	武	6
⑬	讚	珍	珍	濟	濟	興	興	武	5
⑭	讚	珍	珍	濟	濟	興	武	武	5
⑮	讚	珍	珍	濟	？ 2	興	興	武	6
⑯	讚	珍	珍	濟	？ 2	興	武	武	6
⑰	讚	珍	珍	濟	興	興	興	武	5
⑱	讚	珍	珍	濟	興	興	武	武	5

👉 拙案

なるほど五王の場合もありうる。とすれば、通説にいう「五王」とは、どの場合の「五王」か？　あるいは六王とは？

4. 具体的な比定の考え

さて、どうすれば具体的に求まるか？

まず、武、興とする大王は「紀」の②雄略、②①安康とされる。大王を素直に逆順で遡れば

「宋書」；A列；讚？1珍濟？2興武

「紀」 ； B列 ； 神 （德） 中 正 （恭） 康 略

「紀」の代順： ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ㉑ ㉒

倭の七王 讚 ? 1 珍 濟 ? 2 興 武

「紀」の大王 応神 仁徳 履中 反正 允恭 安康 雄略

A列とB列の「音」が似ている。これで、モレ・ダブリの過不足なく1 : 1に対応する。

系譜案－１：記紀の大王系譜；右の添え字数字は「紀」の在位年数

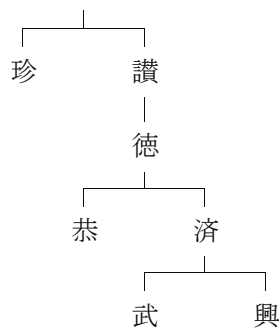


ここで『宋書』にいう系譜上の3つの条件

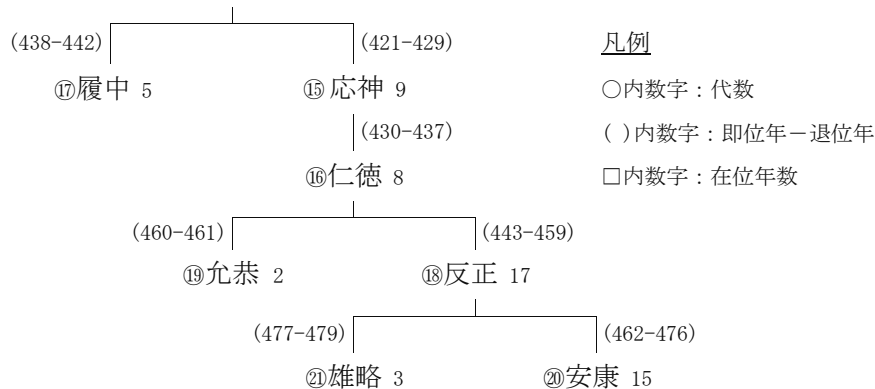
- ・珍は讃の弟である ・興は済の子である ・武は興の弟である

と『梁書』の系譜を、極力、こわさずに系譜案－1に適用すると、系譜案－2となる。

系譜案－2



ここで、倭の七王による新しい大王系譜を下記に示す。



5. 比定結果

この系譜からは、直系大王（応神、仁徳、反正、安康）と傍系大王（履中、允恭、雄略）の**2系列**があること、七王の即位年、退位年が**実歴でわかる**ことなどが重要である。

この新しい大王系譜こそが『宋書』倭国伝のみならず、皇帝本紀に記された倭国王、倭国などの朝貢による踏込石である。これを見落とすと、以降、誤認の連鎖・積層となり、正しい踏止石までたどり着くことはできない。

ここで、『宋書』に記す朝貢主体としての倭の五王、倭国王、倭国と『日本書紀』に記す天皇との対応比定により得た結果を再掲すれば以下である。

讃＝⑮応神、倭国王＝⑯仁徳、珍＝⑰履中、済＝⑱反正、倭国＝⑲允恭、興＝⑳安康、武＝㉑雄略。

（参考文献、資料）

1. 石原道博編訳 2005『魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝』中国正史日本伝(1)
2. 第1表 倭の五王の対中国外交表（括弧内は推定）『古代を考える日本と朝鮮』武田幸男編、吉川弘文館、2005年、p. 87
3. 表1 中国史書にみる倭の五王 「倭の五王と列島支配」田中史生、『日本歴史』第1巻 原始・古代1、岩波書店、2013年、p. 238
4. 住谷善慎 2023『倭の七王 文理融合から解く古市・百舌鳥古墳群』青垣出版